

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ふるーれ			
○保護者評価実施期間	2025年 1月30日 ～ 2025年 3月 7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数)	34
○従業者評価実施期間	2025年 1月 30日 ～ 2025年 3月 7日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4 月28 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員4名体制で手厚く支援している。 ・心理師、言語聴覚士と障害児療育に精通しているベテランのスタッフが対応している。	・午前は、お子さんの発達状況や課題に応じて個別療育を中心に行っている。 ・午後は、年齢別にクラスで小集団での療育を行っているが個々の課題や特性の応じて、活動の中で個別的な対応を行っている。	・スタッフのスキルアップ
2	・活動の中にSST(ソーシャルスキルトレーニング 社会生活技能訓練)を取り入れた療育を行っている。	・少人数（3～4人）のグループ活動の中で、簡単なボードゲームや順番に課題を行う等で、順番を理解して待つことや、友達との関わり方（距離の持ち方や声のかけ方）、場に応じた声の調節、気持ちの切り替えや気持ちのコントロール、最後までやり遂げる集中力を養う取り組みを行っている。	・こだわりの強さや経験不足から、少人数グループに参加しにくい（参加が難しい）お子さんへの対応方法について、個々の状況や能力に応じた個別のプログラムを作成し、無理なく集団活動に参加できるようにする。
3	・療育参観を年2回実施し、活動の様子を説明し、療育中のお子さんの様子を見ていただきながら、相談を受けている。 ・心理スタッフが1日勤務する日を心理相談の日として、相談を受け付けている。 ・活動ごとのフィードバックを迎え時に行っている。	・心理相談は事前に予約をとり、対面での心理相談を行っている。（全員対象） ・午前の個別療育対象者には、活動ごとに10分間のフィードバックを行っている。 ・午後クラスに対しては、上記の心理相談のほか、活動ごとに丁寧にフィードバックしている。	・現在、心理スタッフ中心でフィードバックをしているが、療育スタッフも行えるようにし、保護者対応のスキルアップを取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流、児童発達支援事業としての発信ができていない	・保護者の子どもの障害の受容状況から、療育施設に通って居る事を伏せて置きたい保護者がいる中で、地域住民との交流を持ちにくい。また住宅地にあり近隣との交流も皆無に近い。	・近隣住民とは、施設の機能を理解していただくように顔のわかるお付き合いができるように心がける。
2	・ペアレントトレーニングを行っていない	・職員体制上、悉皆研修以外に職員を派遣しての研修を受講することが難しい。	・他の事業所や区、都の主催で行う保護者向けの講演会や研修の情報提供をする。
3	・施設内外で、バリアフリー化がなされていない	・室内の段差や、危険箇所については、できる範囲で危険回避できるように配慮して対応できているが、借家のため、玄関前やトイレなどのバリアフリー化が難しい。	・玄関の段差について、バリアフリー化は難しいため、予想されるトラブル（転倒や飛び降り等）に対して、ブランターに花を植えておいたり、階段前の塀にクッション素材を貼る等の対策を講じる。また飛び出し等が予想されるお子さんに対しては職員が対応し危険回避するように待機する。